

⑨日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公告

⑪特許公報(B2) 昭57-13660

⑫Int.Cl.³
D 04 C 1/06⑬発明の分野
⑭発明の要旨
⑮発明の概要
⑯発明の詳細な説明
⑰発明の効果
⑱発明の産業上の利用可能性

②公告 昭和57年(1982)3月18日

発明の図 3

(全4頁)

2

①発明の名称

②特 許 第 54-11363
③特 許 第 50-124064
④出 願 第 50(1975)10月14日
⑤公 開 第 52-49356

⑥昭52(1977)4月20日

⑦発 明 者 堀江浩
〒100 東京都千代田区千代田 1-7-8
⑧出 願 人 ニチモク株式会社
〒100 東京都千代田区千代田 2丁目6番
2号

⑨代 理 人 弁 士 佐 野 敏 雄

⑩引用文献
特 許 29190(J.P.C.I.)

⑪特許請求の範囲

- (1) 互通型無端部網であつて互通部面していく各
各の端部が2つのストランドを右廻りした網
2本と、2つのストランドを左廻りした網2本
とより構成したことを特徴とする無端部網。
- (2) 互通型無端部網であつて互通部面していく網
が端部の部面その端方向が左右逆になつて
特許請求の範囲第1項記載の無端部網。
- (3) 互通型無端部網であつて互通部面していく網
の端方向が一定である特許請求の範囲第1項記
載の無端部網。

発明の詳細な説明

本発明は、無端部網に関する。

従来の無端部網はストランド2本を主とし、
これを全て同方向に捻合わせ網を構成しているた
めに上下逆のバランスが取り難く、右又は左の何
れかのトルクが勝る網が徐々に傾ける欠点を持
っており、後加工により熱セットしバランスをと
っているのが現状である。

然しながらセフト効果の面から網の傾きが完全
には解消されず製作面で選定を決定するのに極

端部を行ない同時にバランスの取れた網を作るが
苦心する所であるが図1上図に示る面が多々あり
力力を要していた。

これが改良の試みとして、特許第29190号山
5 本組網なる発明があるが、これは左廻り糸(網)と
右廻り糸(網)と、右廻り糸(網)と、右廻り糸(網)
とよりなる無端部網部分とよりなりこの両部の
網の境界部は千鳥型組網となつて折り返し両部
の網を構成する糸同士は互つた方向の糸は互に
10 混ざらない構成となつてゐる。

そのために、右又は左廻り網のみよりなる各
各の端部については従来の欠点は改善されてお
らず、また千鳥型組網は網脚を構成するストラ
ンドの傾きが端部で折返しとなるために互通型
15 組網部に比し引張り強度が劣り、また端部が大
きくなりやすい欠点を有するために特許第
29190号山本組網は実用化されていない。

本発明は、これ等の欠点を解消するために図1
同志の傾け、トルクを打消す様に異なる幾何方向
20 網脚を一定の規則性により組合せた無端部網で
ある。

即ち各端部ともに、組部部を形成する2つの
ストランドよりなる網脚の4本のうち2本は右廻
り網脚であり、他の2本の網脚は左廻りであるこ
25 とを特徴とした無端部網である。

第5図に実施例の一つを示す。

即ち、いずれの組部部に於ても右廻り(矢印)
の脚2本と、左廻り(点線)脚2本とにより組部
され傾きがバランスされて所期の目的を達すと
共に、さらに加えて互通型無端部網の場合には組部
の傾度、脚の幾何方向が逆となり網地全体を通して
各網脚は右廻り部分と左廻り部分が均等に配分され
同量であり網脚に歪力が加わつても傾けが生じ
ることが防げる。

35 この網を効果よく組部網するための組部製
法の運轉網へのストランド順の配置とこれの運轉
軌跡を第1、2、4、5図に示す。

(2)

特公 第57-13660

3

第3図に比較して明らかな様に従来の配座断面を倍増する効果を有するものである。

即ち第1図では右回転、左回転、右回転・・・と配列されたストランド線の運搬船の各々に各1脚を形成する2組を配置し各船により右回り脚と左回り脚を所定位置に押し出し組座を同図1から7までに示す軌跡をとらせることにより双運搬の組座部を形成するものである。

第2図は、同組座部の組座部を1工程による他の軌跡例である。

第4図は運搬船配列を逆転「渡り」と称する部分での本発明の場合の配座位置を示す。

尚、第1、2図による組座部形成のあとに第6図に示す工程を付加することにより双運搬部を形成することが可能であり、各組座部の横り方向は第5図に示す通りである。

第8図に他の軌跡例を示す。

本組座部配座においても各組座部には2つの右回り脚と、2つの左回り脚よりなり組座部のバランス並に組座部としての左回り脚と右回り脚の均等配分は先の例と同じであるが、本組座部配座型で組座する場合に一つの脚を形成する2本のストランド同定は常に同方向の回り合わせである。また本組座部を千鳥型で組座する場合は、各脚は組座部を形成する時に逆の横り方向になりストランドの配れでみた組座部では先の例と同様に左組座部と右組座部が均等に配分され同定であり、組座に外力が加わっても揺れ部を生じることが防げる。この組座部を組座部形成するストランド組と配座と軌跡の1例を第7図に示す。

このように従来の組座部を組座する組座部配座では、組座部のストランド組を一方のみの横工

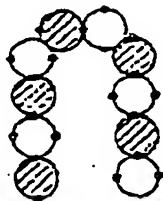
程とするために運搬船列の同回転方向のみ即ち運搬は組座部形成の半数の運搬船のみに配置することになるのに対して本発明の組座部配座に於ては逆方向に回転する運搬船にもストランド組を配置することが可能であり、同一組座部の横りではより多くの組を配置し組座部を形成することが可能でありまた同一組座部形成の横りに対しては組座部を小型化できると言う組座部形成上の利益も大きい。また同上の理由即ち組座部のピンチを小さく出来ることにより従来のより組座部の組座部も可能である。

上述のように本発明は、各組座部ともに右回りの組座部と左回りの組座部が2本ずつで形成組座され、また組座部全体としても右組座部と左組座部が均等に配分形成されるために、組座部の揺れ、変形、歪みを全く生ぜず平滑状態が常に保たれる特長がある。従つて組座作業、組の仕立て、敷設作業などが従来の組座部配座に比べて簡便であり、特に敷設として用いた場合常に安定した目合が保たれることから組座部形成の向上も計りうるなど優れた特長を有するものである。

組座部の簡単な説明

第1図は2組を基礎単位とした組座部配座及組座時の軌跡図、第2図は他の組座部例を示す軌跡図、第3図は従来の運搬船及組座部配座図、第4図は渡りの運搬船配座の1事例を示す配座図、第5図は第1図及第2図で形成された組座部の正逆型を示した組座部配座図、第6図は第1図の組座部より更に千鳥型にするための組座部配座図、第7図は4組を基礎単位とした時の組座部配座及組座時の軌跡図、第8図はこれにより組座された組座部の横り方向の違いを示した組座部配座図である。

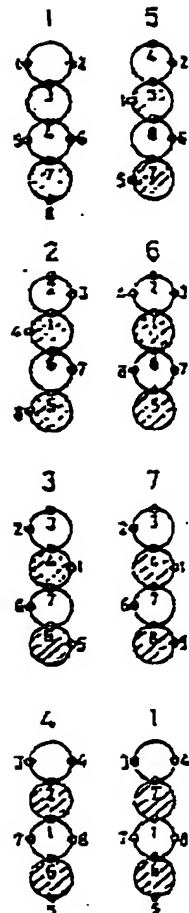
第4図



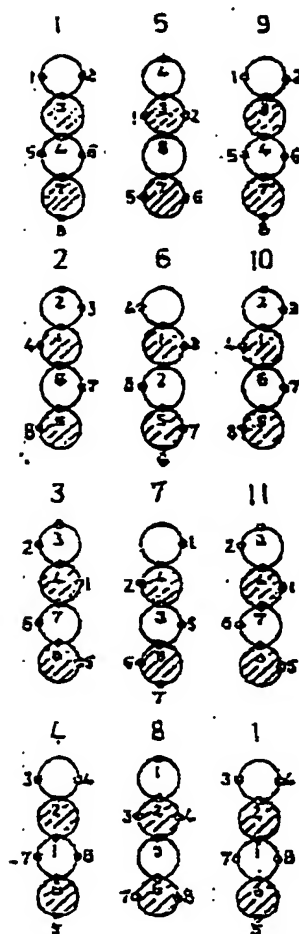
(3)

特公 昭 7-13680

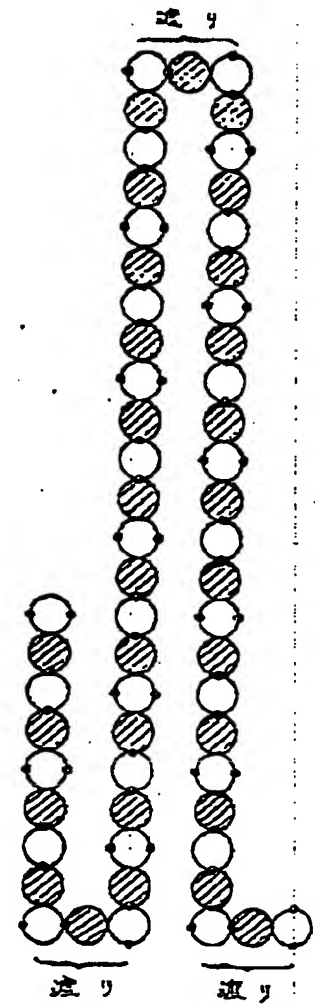
第1図



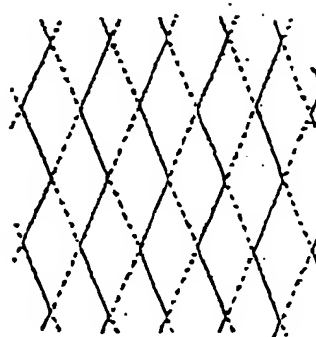
第2図



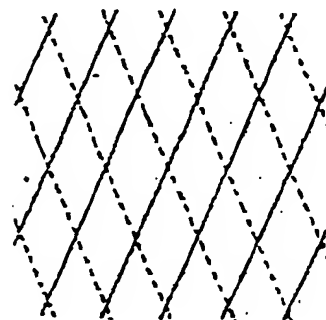
第3図



第5図



第8図



(4)

特全 昭 - 13660

第7圖

第6圖

